

発掘調査成果展

レトロ・レトロの展覧会 2010



主催 財団法人滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会
大津市教育委員会
近江八幡市教育委員会
高島市教育委員会

財団法人滋賀県文化財保護協会は、滋賀県内の文化財の調査や研究、保護思想の普及・啓発、その他必要な事業を行い、本県文化の向上に寄与するため、昭和 45 年（1970 年）に設立され、今年 40 周年を迎えました。

財団法人滋賀県文化財保護協会は、文化財の調査・活用事業
をとおして、ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

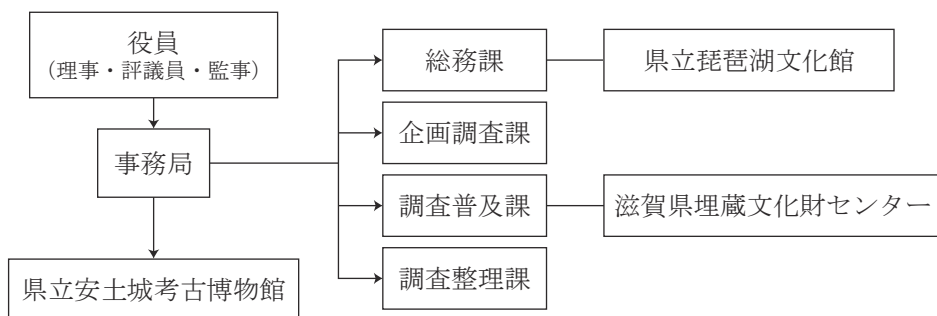
●事業（詳細については、P22 からの事業実績に記載）

- ・文化財の調査研究および保護に関する事業
- ・文化財保護のための普及啓発事業
- ・文化財保護資金の貸付事業
- ・文化財管理施設の管理運営事業

●基本財産

40,000 千円（滋賀県・県内市町・協会の出資金）

●組織図

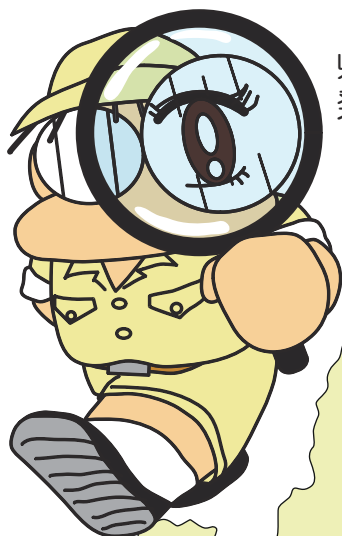


お知らせ

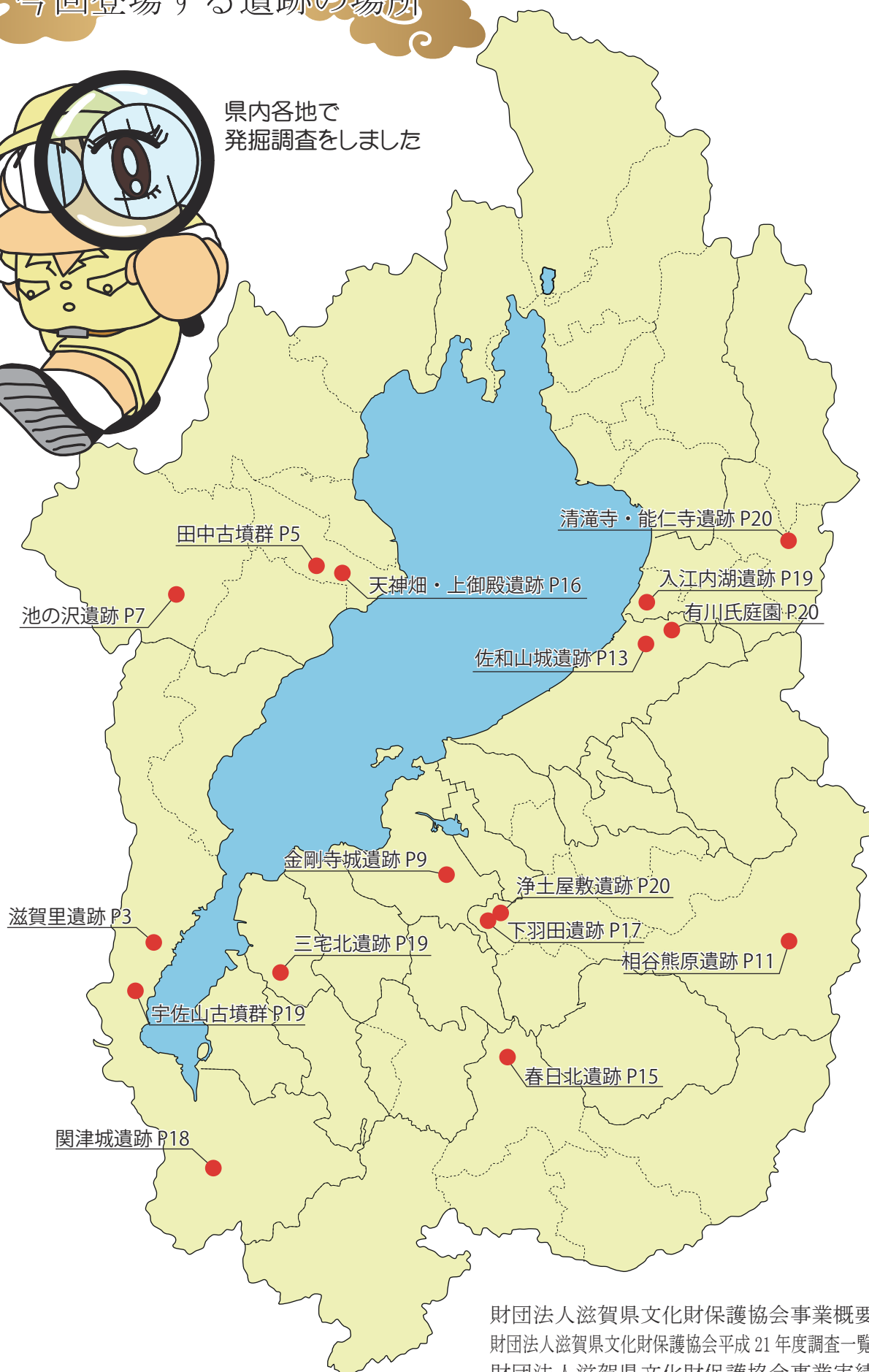
毎年夏に行っている「レトロ・レトロの展覧会」は、皆さんに埋蔵文化財を知っていただくための取り組みのひとつで、今年で24回目になります。この展覧会では、これまで当協会が実施した発掘調査を対象として展示を実施してきましたが、来館された方々から、「私の市町を含めた文化財展示もお願いしたい。」という声が多く寄せられたため、今年度から、大津市・近江八幡市・高島市の教育委員会からご協力をいただき、あわせて展示させていただくことになりました。

この展覧会をとおして、前年度に行いました発掘調査成果を少しでも早く知っていただき、出土した遺物にふれることや体験学習をとおして昔の人たちの生活への関心や、歴史への興味をもっていただければと思っています。

今回登場する遺跡の場所



県内各地で
発掘調査をしました



財団法人滋賀県文化財保護協会事業概要	P1
財団法人滋賀県文化財保護協会平成21年度調査一覧	P21
財団法人滋賀県文化財保護協会事業実績	P22
財団法人滋賀県文化財保護協会平成21年度事業実施概要	P26

しがさと 滋賀里遺跡

大津市見世二丁目

水辺の祭祀に使われた遺物が出土



滋賀里遺跡は、これまでの数次にわたる発掘調査で、縄文時代や弥生時代の墓を始めとする、多くの遺構や遺物が出土している遺跡です。今回の調査では、調査区のほぼ中央を流れる河川跡から、古墳時代前期から中期頃にかけての水辺で穢れを祓ったり、作物が豊かに実るように豊穰を祈ったりする、祭祀に使用されたと見られる遺物がたくさんみつかっています。



水辺の祭祀に使われた土器

川の右岸側から集中して遺物が出土しています。右岸側で祭祀をおこなっていたようです。



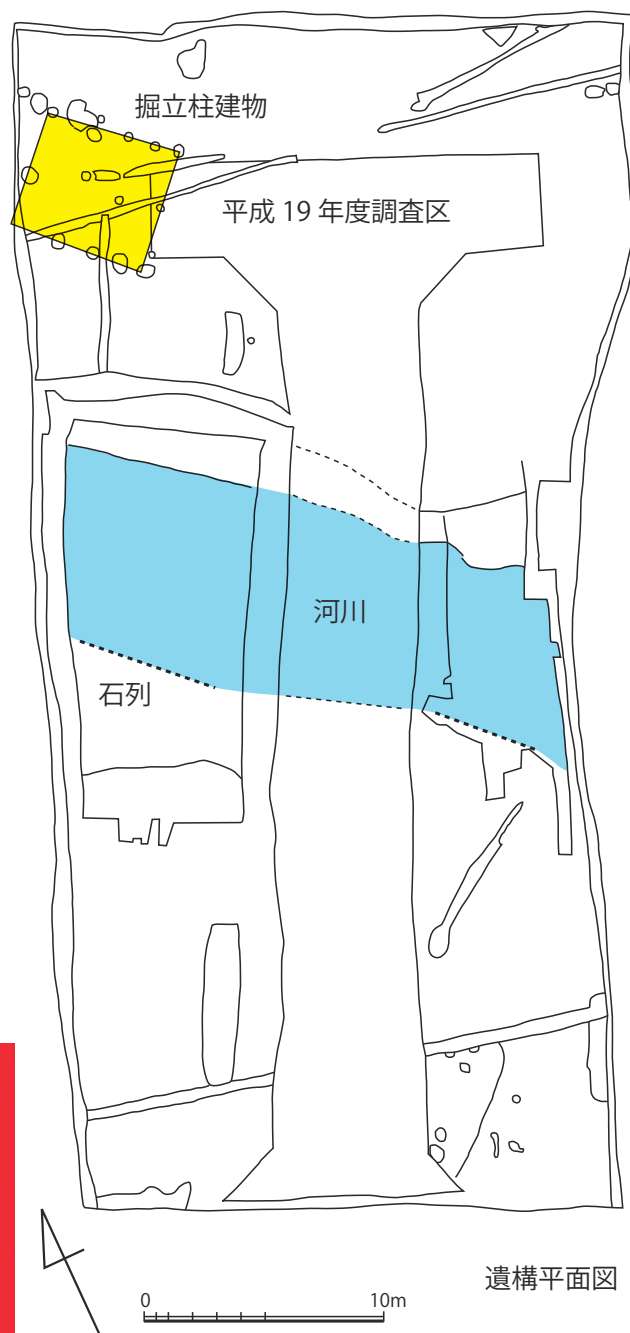
調査地全景（北西より）

調査区のほぼ中央を流れる河川跡は、近くから掘立柱建物以外の同時期の遺構がみつからないことから、集落を限る河川であった可能性が考えられます。

祭祀に使われたと考えられる遺物には、石製模造品である有孔円盤（鏡を模したもの）・剣形・勾玉・臼玉（数珠状につなげてネックレスや腕輪などに使用）・管玉をはじめとして、小型丸底壺などの精製土器、赤彩を施した小型の碗や手づくね土器などがあります。このなかで、石製模造品は、周辺で産出されない滑石で作られており、製品あるいは原石が他所から持ちこまれたものと考えられます。

そのほかに、弥生時代後期から古墳時代前期の土器の中には、北陸や東海地方の特徴を持つものや、大阪府生駒山西麓地域の粘土で作られたと思われるものがあり、周辺地域との活発な交流を示す遺物が数多くみつかっています。

[調査機関・資料提供：大津市教育委員会]



遺構平面図



祭祀遺物

石製模造品（勾玉・有孔円盤・剣形）・臼玉・管玉

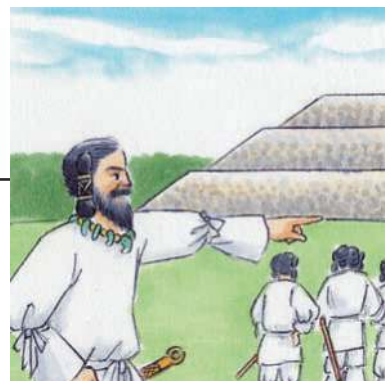


祭祀遺物（土師器）

小型丸底壺（両脇）・器台（中央）

た な か こ ふ ん ぐ ん 田中古墳群

高島市安曇川町田中 とく い よこあなしきせきしつ 6 世紀後半の特異な横穴式石室



田中 36 号墳は、泰山寺野台地の東側一帯に広がる、田中古墳群（計 43 基以上）のうちの一つです。直径約 24m・高さ約 4 m の円墳で、埋葬施設は、花崗岩の石材で構築された横穴式石室です。玄室の奥側には、遺骸安置空間（遺体を置く場所）を小礫を用いて区画するなど、特異な形態をもっています。石室内から馬具や土器類などの多くの副葬品が出土しました。土器は杯身や杯蓋などの須恵器が出土し、その年代から 6 世紀後半の古墳と判明しました。



石室内の遺骸安置空間（遺体を置く場所）
全体に赤色顔料が塗られていました。

※玄室：遺骸を納める主室

※副葬品：遺体の埋葬にあたり、死者に副えておいた品。



石室全景

馬具は玄室の隅にまとめられた状態でみつか
り、少なくとも2セット存在したことがわかって
います。^{くつわ}轡は、装飾的な鐘形鏡板轡と、実用的な
^{かんじょうかがみいたくつわ}環状鏡板轡の2種類が出土しています。^{てつじこんどう}鉄地金銅
^ぼ張りの鏡板本体と^{かぎ}鉤金具からなる、鐘形鏡板轡の
形状は、これまでに全国で出土した馬具の中には、
例が少ないめずらしいものです。この馬具のデザ
インの変遷や源流については、今後の検討が待た
れます。



鐘形鏡板轡

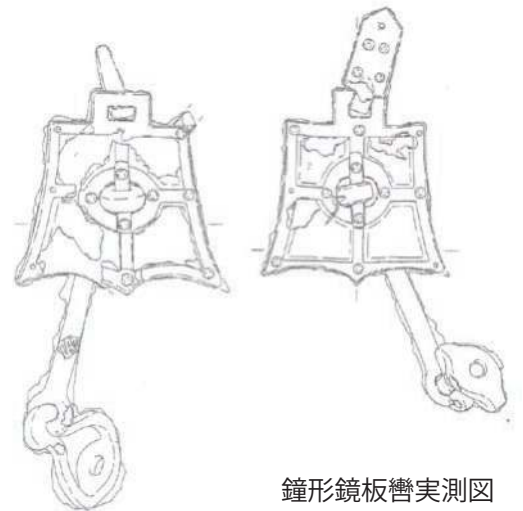


八脚鉢状雲珠

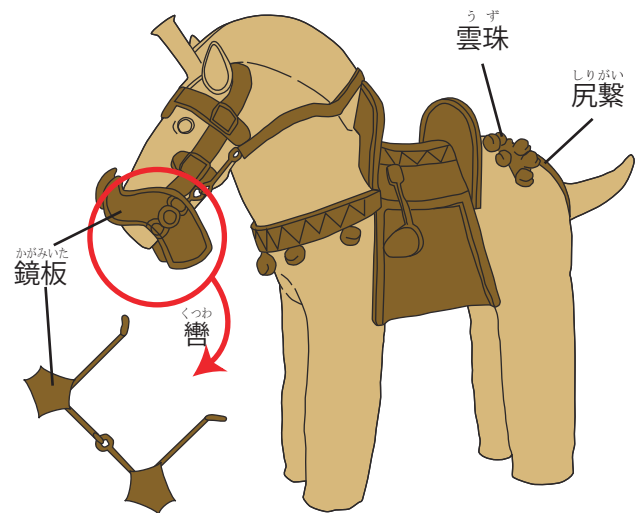


六脚鉢状雲珠

雲珠も、^{はつきやくはちじょううず}八脚鉢状雲珠と、^{ろつきやくはちじょううず}六脚鉢状雲珠の2種類みつかっています。どちらも、鉄地金銅張りで、ほぼ完全な形でみつかっています。



鐘形鏡板轡実測図



馬具の位置と名称

※ 轡：乗馬の際に馬を制御する手綱を馬口につなげる器具。

※ 雲珠：馬具の一種で、尻繫などの皮帯が交差する部分に装着する大型の金具。

◎今回展示する、田中 36 号墳出土の馬具は、元興寺文化財研究所で、保存処理が完了したものです。また、石室は調査終了後、現地保存されました。

[調査機関・資料提供：高島市教育委員会]

いけ さわ 池の沢遺跡

高島市朽木村井

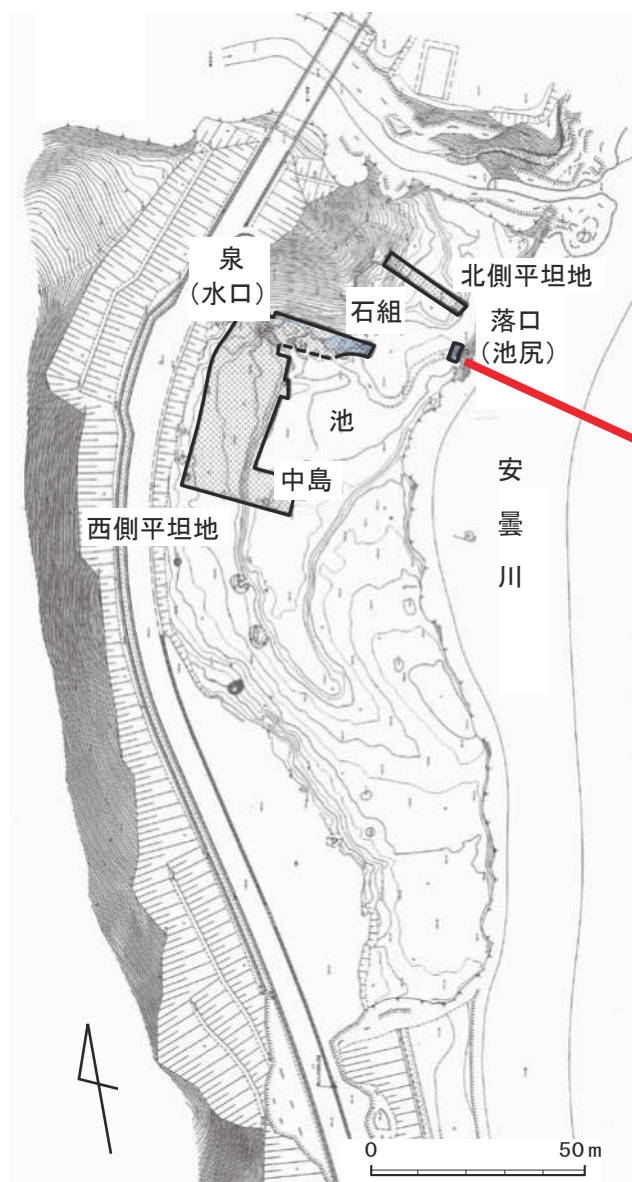
貴族の^{みや}雅びな庭園跡を発見



池の沢遺跡は、京都と若狭を結ぶ「若狭街道」^{わかさかいどう}が通る朽木谷につくられた、鎌倉時代の庭園遺跡です。この時期の庭園は全国的にみても数が少ないことから、発掘調査を行いました。

調査の結果、この庭園は、山裾からの湧水^{ゆうすい}を水源とする南北約 80m・東西約 32m の南北に長

く浅い池を中心とし、石を組み合わせた池尻から滝として安曇川へ落すようにつくられていることがわかりました。池には中島が配され、護岸^{ごがん}には荒磯風石組^{あらいそふういしぐみ}や州浜^{すはま}などの庭園意匠^{いしょう}が当時の姿のまま見事に残っていました。



調査範囲図



池尻

池から流れ出る素掘り溝の終点に、石を組み合わせ滝を構築しています。



池の底からは、「折敷」の底板が、石組みの裏
込めからは、京都風の土師器皿がみつかり
ます。

庭園に伴う居宅跡は確認されていませんが、
池周辺の平坦地に造られていたものと推定され

ます。

朽木は平安時代末期から鎌倉時代を通じて
数々の古歌に詠われているように、都の貴族た
ちが行楽の場としていたと考えられます。

[調査機関・資料提供：高島市教育委員会]

こんごうじじょう 金剛寺城遺跡

近江八幡市金剛寺町

「金剛寺」関連遺物が出土



金剛寺城遺跡は、これまでの周辺の調査で、中世に近江の守護をつとめた佐々木六角氏が築いた金剛寺城に関する遺構が確認されていきました。今回の調査では、室町時代の土坑から、鬼瓦または鯰瓦と推定される瓦片・香炉片・塼などがみつかりました。

金剛寺は元亀元年（1570年）に織田信長によって廃絶されたとの伝承があります。



調査地遠景（八幡山を望む）

市立金田小学校の新校舎建設に伴い、発掘調査を実施しました。

- ※鬼瓦：瓦屋根の棟端につける、魔除け用の瓦。
- ※鯰瓦：瓦屋根の棟端に置く魚の反り返った姿の飾り。



室町時代の溝と建物

鬼瓦か鯨瓦と推定される瓦片は、室町時代後期（16 世紀前半）の土坑の中からみつけられました。近くの溝からは、仏堂等の床などに敷き詰めて使用されていた埴^{せん}もみつっています。これらの遺物は、大小の礫^{れき}に混じって出土していることから、調査地近辺にあった寺院（金剛寺）が壊され、その遺物が今回の調査地において出土した状態であると考えられます。

その他に平安時代後期から鎌倉時代の建物がみつっています。平成 20 年度の調査でみつかった建物とあわせると 16 棟になり、この時期の集落の広がりが確認できました。

〔調査機関・資料提供：近江八幡市教育委員会〕



鬼瓦又は鯨瓦が発見された土坑



発見された鬼瓦又は鯨瓦



鎌倉時代の建物群

あい だに くま はら

相谷熊原遺跡

東近江市永源寺相谷町

国内最古級の土偶を発見



相谷熊原遺跡は、東近江市永源寺相谷町にあります。遺跡は小高い丘の上にあり、丘の麓を愛知川が流れています。川を挟んだ対岸には紅葉で有名な臨済宗永源寺があります。



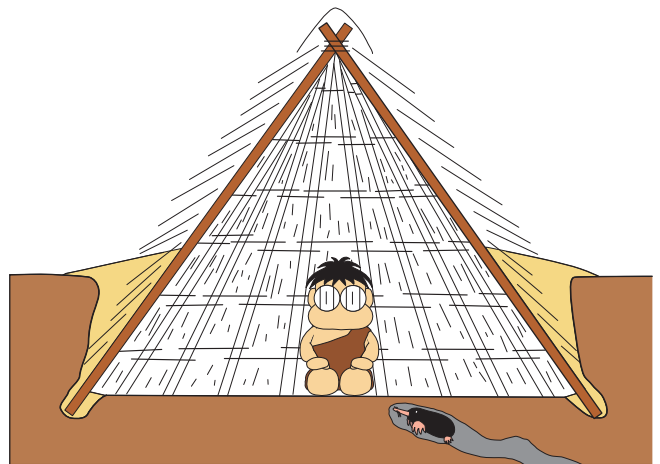
土器棺墓群検出状況



土器棺の中に落ち込んだ石

遺跡の西端部分で縄文時代晩期前半（約3,000年前）の土器棺墓群が見つかりました。土器棺墓とは、土器を棺にして死者を葬ったもので、29基検出されました。深鉢を横や斜めにして穴に埋めており、浅鉢や他の深鉢で蓋をしたものもあります。また、土器棺の上に置かれていた石が土器棺の中に落ち込んだ状態のものも見つかりました。

さらに、土器棺墓群から 200mほど離れたところで、縄文時代草創期（約 13,000 年前）の竪穴建物が 5 棟みつかりました。直径約 8m の大型のもので、深さは 0.6 ～ 1.0m あります。これらの建物跡は床面が深く掘りこまれている点の特徴です。当時は、今よりずっと寒かったようで、暖をとることや地面が崩れやすい土質であること、鈴鹿山脈から吹き下ろす強風があることなどから、縄文人が工夫をしたと考えられます。



※『三重県埋蔵文化財調査報告 大鼻遺跡』の復原図を参考



縄文時代草創期の竪穴建物跡

草創期の竪穴建物のうち、一番高い所にある建物跡から土偶が出土しました。これは日本で最古級のものです。

土偶は高さ 3.1cm で、完全な形で出土しました。胸と腰のくびれは明確に表現されていますが、腕や足は表現されていません。また、頭部はなく、首と思われる突起部分には深さ 2cm の穴が開けられています。

この土偶は底部が平坦に仕上げられており、自立します。自立できる土偶は縄文時代中期以降によく見られますが、これまでに出土した縄文時代中期より前の土偶には見られない特徴です。



土偶

佐和山城遺跡

彦根市佐和山町

石田三成時代の武家屋敷と城下町を発見



「三成に過ぎたるものが二つあり、嶋の左近と佐和山の城」と後世に形容される佐和山城は、関ヶ原合戦（1600年）で西軍を率いた石田三成の居城として全国的に有名です。昨年から行っている佐和山の東麓で発掘調査の結果、武家屋敷跡や、内堀跡・城下町跡などがみつかりました。



堀



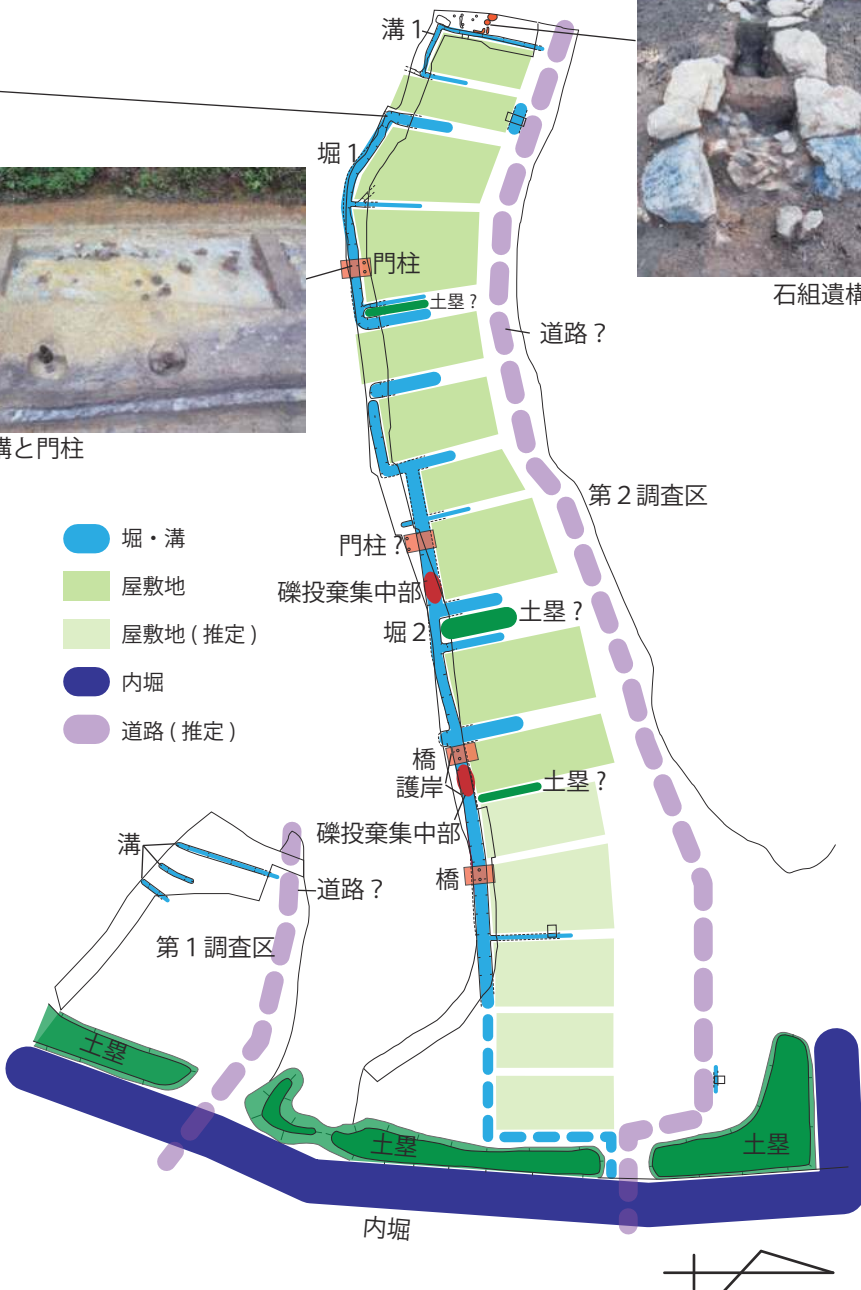
橋状遺構と門柱



石組遺構

【侍屋敷】

佐和山の東麓、『佐和山城絵図』に「侍屋敷」と書かれた場所の調査では、山裾に沿って掘られた堀が見つかりました。堀の周辺からは、堀を渡って山（城）に上る橋跡や、門柱の跡などがみつかりました。また、鉄砲の玉や小柄など、武家屋敷での生活の様子をうかがわせる金属製品、信楽焼・備前焼の播鉢や瀬戸美濃焼の天目茶碗、青磁碗などの土器類、下駄や漆器碗などの木製品、砥石や石臼などの石製品などの遺物がみつかりました。





桐文銅製紐金具

五三桐

【銅製紐金具】

新聞でも話題になった桐文銅製紐金具は手箱てばこを飾っていた金具です。銅板を五三桐ごさんのきりにかたどり、花や葉を蹴彫けりぼりで表現しています。葉の葉脈部分は無地ですが、その間は魚々子ななこで表現しています。着色などの跡は残っていませんが、本来は鍍金と きんなどが施されていたと考えられます。

桐の文様は中世の金具類のモチーフとして広く用いられ、石田三成の主君である豊臣秀吉きりもんも好んで使用しました。やがて桐紋きりもんの権威けんいが高まると、秀吉は無許可での使用を禁止し、限られた人物にのみその使用を許可しました。



内堀跡（赤い矢印の部分が推定堀幅）

【内堀跡】

佐和山城は関ヶ原合戦ののち、三成に代わって城主になった井伊氏によって慶長 9 年（1603 年）に彦根城の築城が開始されると、石垣などの部材が持ち出され、すっかり壊されてしまいました。内堀の内側に築かれていた土塁もその後削られてしまいましたが、今でも部分的に 1 ～ 2m 程度の高さで残っています。

現在、佐和山の東麓には小野川が流れており、これが内堀の跡を示すものと考えられていま

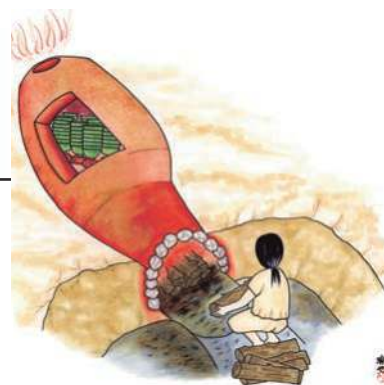
す。

この川の東側（内堀の外側）の調査で、堀の一部がみつかりました。堀の東端から土塁までの距離は 22m もあり、これは安土城の内堀と同じくらいの幅で、とても大規模なものです。堀の深さは 0.5m しか残っていませんでした。現存する土塁との高低差は約 2m あります。土塁の上部は大きく削り取られていますから、当時は高い土塁と深い堀を併せ持つ堅牢な構えけんろうであったと考えられます。

かす きた 春日北遺跡

甲賀市水口町春日

平安時代の緑釉陶器窯跡を発見



春日北遺跡は 30 年程前に^{りょくゆうとう き}緑釉陶器（緑色の釉をかけた陶器）の片や^{かまどう ぐ}窯道具などが採集され、窯跡があることが知られていました。今回の発掘調査の結果、平安時代（10 世紀前半～後半）の窯跡が 6 基（5 基が緑釉陶器窯、1 基は^{かいゆうとう き へいしょうがま}緑釉陶器・灰釉陶器併焼窯）見つかりました。

斜面に良好な状態で残っていた 1 号窯は、^{たき}焚口から^{おくへき}奥壁までの長さが 2.7m、^{ねんしょうしつ}燃烧室（薪を燃やす部分）の部分の長さ 1.2m、^{しょうせいしつ}焼成室（陶器を焼く部分）の長さ約 1.5m、焼成室内側の最大幅 0.9m の規模です。焼成室の下は 3 本の^{ぶんえんこう}分焰溝と 2 本の^{ぶんえんへき}分焰壁で炎を通す構造になっています。この構造は他地域では見られない、近江特有の構造です。燃烧室と焼成室の境の天井の高さは 30cm で、焚口側から焼成室へ出入りすることはできません。窯の後部が破壊された状態で見つかったことから、窯詰め・窯出しはそのつど窯の後部を壊して行っていたと考えられます。

分焰壁の上には窯壁片を敷いて焼成室の床をつくっています。焼成室の床面は焚口の床面から 1 m 高い位置にあります。部分的に掘って内部の様子を確認したところ、4 つの焼台が並んでおり、そのうちのひとつには緑釉陶器がのった状態で出土しました。

窯の大きさから考えると、この窯の燃烧室には 20 個くらいの焼台を置くことができます。それぞれの焼台に 10 個の陶器が重ねて焼かれたとすると、一度に 200 個の製品を焼き上げることになります。

この窯で焼かれた緑釉陶器は平安京や地方役



1 号窯跡（手前が焚口）



緑釉陶器出土状況

所などの公的施設をはじめとして、東北から九州まで広い範囲に供給されていたと考えられます。

天神畑・上御殿遺跡

高島市安曇川町

川の跡からお経が出土



高島平野の南部に天神畑遺跡があります。調査では、深さ 2.5m・幅 30m 以上の、縄文時代から中世にかけて長い間流れていた川の跡がみつかりました。この川の跡にたまった土砂の中から、「こけら経」がほぼ一塊で出土しました。「こけら経」は室町時代後期（15～16世紀）に、水が緩やかに流れていた川に流されたものと考えられます。



調査状況

※こけら経…薄い板材（こけら）に『妙法蓮華経』などの経典を墨書したもの。供養などのために写経され、通常 20～40 枚程度をひと組にして、こよりやひもでしばって埋めたり流したりした。川・堀・溝・池などの水に関する遺構からの出土例が多い。



こけら経出土状況

今回出土した「こけら経」のうち、教典名が推定できるもの 115 点のうち、38 点が『金剛般若波羅蜜経』です。『金剛般若波羅蜜経』は、とくに中国の禅宗で重んじられた経典です。日本に伝わるこの経典の多くは、中国から渡来した僧や中国留学から帰国した禅僧らが書写したものです。

今回の『金剛般若波羅蜜経』の出土例は、柳遺跡（草津市）、清州城下町遺跡（愛知県清洲市）に次いで、全国で3例目となります。

出土した「こけら経」のなかには、誤字を修正したのがあります。出土品には、「他」の字を「佛」と書き間違えたので、それを修正するために誤字の左側に小さく「ヒ」と書き入れ、正しい文字を右側に書き入れたものなどがあります。この「ヒ」は、「見せ消ち」と呼ばれるもので、修正前の文字にも仏がやどるとして見えるようにした修正方法です。「見せ消ち」のあるこけら経が見つかったのは、全国初の出土例となります。

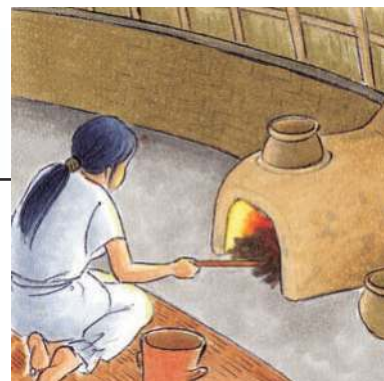


「見せ消ち」のある法華経

しも はね だ 下羽田遺跡

東近江市上平木町

かまど導入期の住居発見

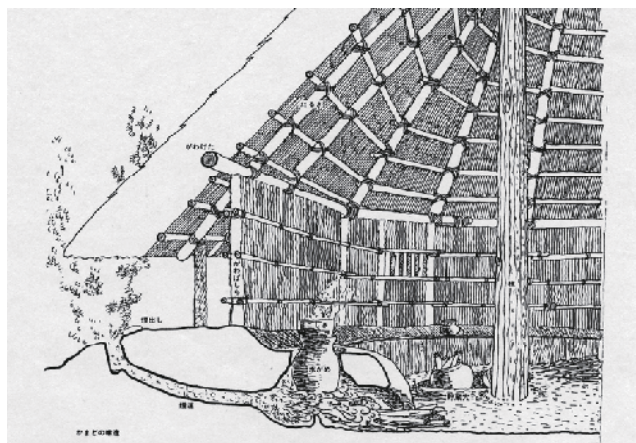
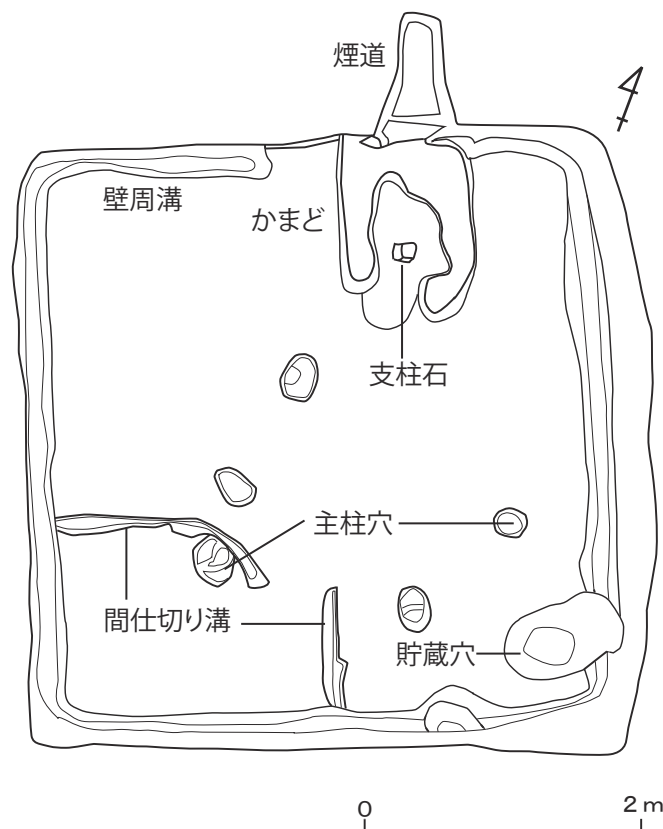


下羽田遺跡は東近江市下羽田町から上平木町にかけて位置し、遺跡の西側を白鳥川が流れています。

調査では、古墳時代前期から中期にかけての竪穴住居や古墳時代前期の木棺墓・土坑墓、奈良時代末から平安時代の掘立柱建物などがみつかりました。

とくに、古墳時代中期（5世紀後半）の室内にかまどを持つ竪穴住居は、住居の中央に炉を持つ構造から、壁際にかまどを据える構造へ変化していく時期のもので、かまどが導入された当初の様子がわかる貴重な例です。

かまどが導入されると、それまで炉で行っていた「煮る」「炊く」に加えて「蒸す」という調理方法が普及しますが、この住居跡からは蒸すための調理器具である甑はみつかりませんでした。このことから、この住居に住んでいた人々は、かまどという新しい技術は導入しつつも、甑は用いず、古墳時代前期と同様に煮炊き用の甕を使って調理をしていたことがうかがえます。



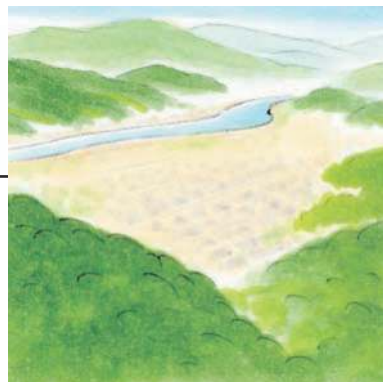
竪穴住居

竪穴住居の模式図(日本人のすまい—住居と生活の歴史 彰国社より転載)

せきのつじょう 関津城遺跡

大津市関津

戦国期の山城の調査



関津城遺跡は、北側に関津集落が見渡せる低丘^{きゅう}陵先端^{りょうせん}に位置する中世城郭^{じょうかく}です。承久の乱（1221年）の際、清和源氏の流れをくむという宇野源太郎^{うのげんじ}守治が戦功をたてた恩賞^{おんしょう}として、鎌倉幕府から関津城を与えられたとされています。その子孫は

長く城主としてあったらしく、大石瀧門の八幡神^{はちまん}社^{たなかみせき}に伝わる天文9年（1540年）の棟札^{たなかみせき}に「田上関津宇野美濃入道^{のつうのみのにゅうどう}」の名がみられ、関津の称名寺には宇野氏の墓と伝えられる大きな五輪塔^{ごりんとう}があります。



丘陵頂部の曲輪

今回の調査では、発掘調査範囲から、土塁^{どるい}で囲まれた3か所の曲輪跡（頂部・北裾・西裾）が確認されました。それぞれの曲輪跡では、大量の土砂^{ほうらく}の崩落が認められ、城の機能を停止させる「破城^{はじょう}」が行われていた可能性が明らかになりました。

西裾の曲輪の崩落土中からは、信楽焼^{しがらきやき}播鉢^{はりばち}・備前焼^{びぜんやき}甕^{かめ}・中国製白磁皿^{はくじさら}・中国製青磁碗^{せいじわん}などのほかに、漆塗り^{うるしぬり}木製品（椀^{わん}・盆^{ぼん}）が出土しています。また、同じく西裾の曲輪の遺物包含層^{ほうがんそう}からは、精巧なつくりの飾金具^{せいきこう かざりかなぐ}も出土しています。



朱塗り椀 高台内部の墨書「雲」

い り え な い こ

入江内湖遺跡

米原市入江

入江内湖遺跡は、平成14年～16年度に行った発掘調査で、縄文時代前期～後期の丸木舟5艘やマグロの骨などがみつき、注目を集めた遺跡です。今回の調査では、自然流路（川）跡から、縄文時代前期の土器のほかに、木製の弓や斧柄、石製の錘や玦状耳飾などが出土しました。

タモ粹出土状況



う さ や ま

宇佐山古墳群

大津市神宮町

近江神宮に近い宇佐山の東斜面に広がる、12基の円墳からなる古墳群です。今回の試掘調査では、柳川支流の南側で1基の古墳と、古墳の墳丘とみられる高まりを3基確認しました。また、柳川支流北側にある平坦面からは、奈良時代の土馬がみつき、周辺に祭祀遺構がひろがる可能性が考えられます。

古墳断ち割り状況



み や け き た

三宅北遺跡

守山市三宅町

立命館守山中学校・高等学校グラウンド整備工事に伴い、発掘調査を実施しました。その結果、幅1.1～2.5m・長さ114mで東西方向に直線的に延びる溝がみつかりました。出土遺物などから、飛鳥時代に流れていた溝と考えられます。

飛鳥時代の溝



じょう ど や しき

浄土屋敷遺跡

東近江市上平木町

浄土屋敷遺跡は、旧八日市市の西部に広がる室町時代の集落遺跡です。平成 19 年度の発掘調査では、堀に囲まれた屋敷地内から、区画溝と掘立柱建物くかくみぞ ほったてがみつかっています。今回の調査でもひきつづき、堀や区画溝・掘立柱建物が確認されていますが、そのほかに、お墓どこうぼ（土墳墓）もみつかっています。

堀跡



きよ たき でら のう にん じ

清滝寺・能仁寺遺跡

米原市清滝

清滝寺は、京極家の菩提寺として、歴代当主の墓所（国指定史跡）があることで有名な寺院です。今年度も昨年度の調査にひき続き、現徳源院南西部に位置する坊跡ぼうあとの調査を行いました。その結果、室町時代後期～江戸時代前期に造られた、坊跡や掘立柱建物・石積井戸などを確認しました。

石積井戸

五輪等の火輪部分のみを積み重ねて井戸枠にしています。
（直径 1.1m・深さ 1.2m）



彦根市指定文化財

あかだましんきょうがんほんぽ ありかわし

『赤玉神教丸本舗』有川氏庭園

彦根市鳥居本町

中山道鳥居本宿で、江戸時代前期（1658 年）から操業そうぎょうしている赤玉神教丸本舗庭園の測量調査を行いました。庭園は江戸期の作庭で、現在も庭園景観が良好に保たれています。

建物より庭園を望む



財団法人滋賀県文化財保護協会 平成21年度調査一覧

遺跡名	所在地	調査	面積	報告書	事業者	調査原因	主な内容
下川原遺跡	甲賀市	発掘	900		国土交通省	国道1号水口道路	奈良時代の堅穴住居など
入江内湖遺跡	米原市	発掘	1,200			国道8号米原バイパス	縄文時代の遺物包含層・自然流路
関津城遺跡	大津市	試・発	2,465		土木交通部	道路改良	戦国時代の山城(郭3ヶ所)
天神畑・上御殿遺跡	高島市	発・整	3,800			河川改修	弥生時代～中世の河川跡と河畔の集落跡・墓跡・柿経
日置前遺跡	高島市	発掘	2,050			道路整備	奈良～平安時代の掘立柱建物跡など
蛭子田遺跡	東近江市	発掘	500			名神高速蒲生IC	古墳時代の自然流路、平安時代の溝
金貝遺跡	東近江市	発・整	800			河川改修	奈良～平安時代の集落跡
春日北遺跡	甲賀市	試・発	740			道路整備	平安時代の緑釉陶器窯跡
清滝寺・能仁寺遺跡	米原市	発・整	1,100			砂防工事	室町～江戸時代の掘立柱建物・井戸など
殿村D遺跡	長浜市	試掘	540			道路整備	遺構・遺物は特になし
針氏城遺跡	湖南市	発掘	1,604			ほ場整備	古墳時代の堅穴住居、近世の陶磁器、針氏城に関連する堀
長島・夕日ヶ丘北遺跡	野洲市	発掘	312		農政水産部	ほ場整備	古墳時代の粘土採掘土坑など
井戸遺跡	湖南市	試・発	730			ほ場整備	自然流路跡、縄文土器など
浄土屋敷遺跡	東近江市	発掘	7,270			ほ場整備	区画溝を持つ中世の集落跡
相谷熊原遺跡	東近江市	試・発	4,755			ほ場整備	縄文時代の土器棺墓群
下羽田遺跡	東近江市	試・発	3,800			水質保全	古墳時代の堅穴住居・掘立柱建物
金貝遺跡	東近江市	発・整	564	○		ほ場整備	奈良～平安時代の集落跡、三間社流造神社遺構
佐和山城遺跡	彦根市	発掘	2,881			ほ場整備	織豊期の屋敷地を区画する溝・飾金具など
佐和山城遺跡	彦根市	試・発	1,548			ほ場整備	佐和山城下町に関する遺構、道跡・井戸跡・内堀跡など
三宅北遺跡	守山市	発掘	1,800		(学)立命館	グラウンド整備	古代～中世の須恵器・土師器など、6世紀末～7世紀の溝
宇佐山古墳群	大津市	試掘	280		土木交通部	砂防工事	奈良時代の土馬、古墳～奈良時代の須恵器・土師器など、古墳
下長遺跡	守山市	試掘	72			道路改良	古墳時代の流路、奈良～平安時代の掘立柱建物
金剛寺城遺跡	近江八幡市	試掘	18			道路改築	奈良時代の小穴・土坑など
檀木原遺跡	大津市	整理			国土交通省	国道161号西大津バイパス	大津宮時代の窯跡、奈良～平安時代の平窯
堂山古墳群	栗東市	整理		○		国道1号栗東IC	古墳時代後期の古墳・土器・石製品など
特別史跡彦根城跡	彦根市	整理		○	滋賀県教育委員会	校舎改築	彦根藩重臣戸塚家邸宅跡
塩津港遺跡	長浜市	整理			滋賀県教育委員会	緊急雇用創出	平安時代後期の神社跡
針江浜遺跡	高島市	整理			滋賀県教育委員会 (旧水資源公団)	琵琶湖総合開発	弥生時代前期の集落跡
志那湖底遺跡	草津市	整理				琵琶湖総合開発	縄文時代後期～晩期の土器棺墓
上仰木遺跡	大津市	整理		○	土木交通部	道路改築	平安時代の製鉄関連遺構・鉄鉾石など
極楽寺遺跡	高島市	整理		○		道路改修	古墳時代の円墳、奈良～平安時代頃の掘立柱建物
最勝寺境内遺跡	甲賀市	整理		○		砂防工事	石仏・石塔群の集積地
十里遺跡	栗東市	整理		○		道路整備	弥生時代の方形周溝墓・ガラス小玉・管玉など
小野寺遺跡	長浜市	整理		○		砂防工事	近世～近代の平坦面、河道と道路遺構
番場遺跡	日野町	整理				国道改良	古墳時代中期の流路
関津遺跡	大津市	整理		○		ほ場整備	奈良～平安時代前期の道路跡など
井戸遺跡	湖南市	整理		○		ほ場整備	縄文時代の土坑・縄文土器、平安時代の掘立柱建物
針氏城遺跡	湖南市	整理				ほ場整備	縄文時代の落ち込み、8世紀の溝・柱穴、15世紀ごろの掘立柱建物や溝
針氏城遺跡	湖南市	整理			農政水産部	ほ場整備	古墳時代の堅穴住居、近世の陶磁器、針氏城に関連する堀
夏見城遺跡	甲賀市	整理				ほ場整備	室町時代後期の城館跡
長島・夕日ヶ丘北遺跡	近江八幡市	整理		○		田園空間整備	古墳時代～中世の土器
浄土屋敷遺跡	東近江市	整理				ほ場整備	縄文時代の墓跡、古墳時代の堅穴住居、中世の屋敷跡
肥田城遺跡	彦根市	整理		○		ほ場整備	室町時代の肥田城に関する遺構・遺物
六反田遺跡	彦根市	整理				中山間	縄文時代の貯蔵穴・土偶など
松原内湖遺跡	彦根市	整理			東北部流域下水道	建物建設	奈良～平安時代の須恵器・土師器・土鍾、室町～江戸時代の陶磁器・砥石
塩津港遺跡	長浜市	確認	200		土木交通部	河川改修	平安時代後期の神社跡
彦根市指定文化財『赤玉 神教丸本舗』庭園	彦根市	測量	110		彦根市教育委員会	庭園保存	江戸時代の庭園の測量調査
西万木遺跡	高島市	整理		○	(株)平和堂	店舗建築	室町時代の屋敷地、中国製長頸瓶
西明寺本坊庭園	甲良町	測・整		○	(宗)西明寺	庭園修理	江戸時代の庭園の測量調査
多賀神社奥書院庭園	多賀町	立・設		○	多賀町教育委員会	保存修理	室町～江戸時代の庭園の修理と調査
			40,039	15冊			

財団法人滋賀県文化財保護協会では、県・市町教育委員会との連携を図りながら、文化財の保存・活用に関する事業を幅広く受託します。

1. 埋蔵文化財発掘調査事業

①滋賀県教育委員会からの発掘調査・整理調査受託

(平成 21 年度事業については、P 21 参照)



清滝寺・能仁寺遺跡整理作業

②市町教育委員会からの発掘等調査受託

- ・守山市三宅北遺跡の発掘調査・整理調査および報告書編集

(私立立命館高校グラウンド造成工事)

- ・湖北町史跡小谷城跡出土遺物整理調査および報告書編集

(国庫補助事業)

- ・高島市西万木遺跡発掘調査・整理調査および報告書編集

(大型店舗建設工事)



三宅北遺跡発掘調査



西万木遺跡発掘調査

③民間開発事業に伴う発掘調査受託

- ・甲賀市北脇遺跡発掘調査事業・整理調査および報告書編集

④指定文化財保存修理事業

- ・彦根市指定文化財「赤玉神教丸本舗」有川氏邸宅庭園の測量調査

- ・重要文化財明王院本堂ほか3棟

修理工事に伴う発掘調査・整理調査および報告書編集



有川氏邸宅庭園

2. 名勝庭園保存修理事業受託

- ・名勝西明寺本坊庭園保存修理事業および保存修理工事報告書の刊行

- ・名勝多賀神社奥書院庭園保存修理事業

および保存修理工事報告書の刊行



西明寺本坊庭園調査状況

3. 文化財活用事業の受託

①滋賀県教育委員会からの受託事業

- ・琵琶湖に関する文化財を幅広く紹介するためのガイドブック・講演会の開催
- ・「近江水の宝」紹介リーフレットの作成
- ・体験学習の実施



「近江水の宝」
紹介リーフレット



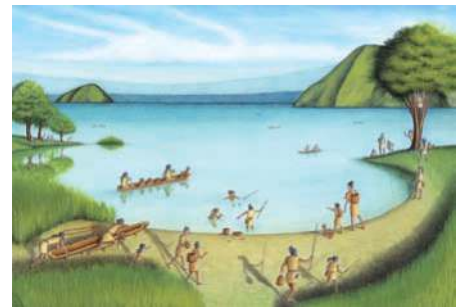
滋賀県埋蔵文化財センター
体験学習「ドングリを食べよう」

②市町教育委員会からの受託事業

- ・葛籠尾崎湖底遺跡紹介パンフレット編集事業

湖北町教育委員会の依頼により、葛籠尾崎湖底遺跡を紹介する『琵琶湖の神秘—葛籠尾崎湖底遺跡—』を編集・刊行しました。(A4 版 12 ページ カラー印刷)

あわせて、湖北町尾上公民館において葛籠尾崎湖底遺および周辺遺跡を紹介する講座と縄文時代をテーマとした体験学習を開催しました。



葛籠尾崎湖底遺跡イメージイラスト
(パンフレット掲載)

4. 文化財活用事業の実施

財団法人滋賀県文化財保護協会は、受託事業の他、文化財の価値を周知し、これを未来に継承することを目的とし、文化財活用事業の実施に積極的に取り組んでいます。

①発掘調査説明会等の実施

発掘調査では、その成果をより早く、多くの人に知ってもらうため、記者発表や説明会を開催しています。



佐和山城遺跡現地説明会



春日北遺跡現地説明会

②発掘調査成果報告会の実施

発掘調査報告書を刊行し、その調査成果を遺跡の所在する地域で報告会を実施しています。



赤野井浜遺跡・弘前遺跡報告会
(守山市赤野井自治会館)



草津川関連遺跡群報告会
(イオンモール草津)

③整理調査報告会「あの遺跡は今！」の実施

現地での発掘調査に引き続き実施する整理調査において、明らかとなった成果をわかりやすく県民の皆様へ報告します。



報告会の様子



出土遺物の展示解説

④文化財連続講座「モノ知り学―遺跡調査員が語る近江の歴史―」の実施

滋賀県文化財保護協会の職員が、さまざまな分野の文化財を対象に、出土した遺物などを使って詳しく解説します。



連続講座の様子



公開講座の様子

⑤文化財展の開催

県内各地で実施した、発掘調査や整理調査の成果を県民の皆さまに知っていただくため、わかりやすい展示をしています。

- ・「レトロ・レトロの展覧会―平成 20 年度発掘調査出土品展―」の開催
- ・調査成果展「水中考古学の世界―びわこ湖底の遺跡を探る―」の開催
(安土城考古博物館との共同開催)



レトロ・レトロの展覧会



調査成果展

⑥特別展示の実施

大型商業施設等で、滋賀県内の遺跡出土の遺物を紹介する展示を行っています。

⑦体験イベントの実施

大型商業施設等で、勾玉の製作をはじめとする体験学習を行っています。



勾玉製作体験
(イオンモール草津)



縄文人のアート展
(イオンモール草津)

⑧車両展示の実施

京阪電気鉄道株式会社と協働で、京阪石坂線車両の内外に文化財展示を実施しています。



湖都古都御都 n 石坂線文化財号Ⅱ

⑨文化財講師の派遣

文化財専門職員が一般の方々に講座等を通して文化財の魅力や価値を伝える『文化財講師』のデータベースを作成し、ホームページ上で公開するとともに、講座や体験学習の講師として職員を派遣しています。

⑩出土品の活用事業「埋蔵大喜笑!! (マイゾオオキニッ)」

埋蔵文化財センターでは、学校を始めとする地域学習の素材として、本物の出土文化財の貸し出しや、それを用いて授業を行う講師の派遣を行っています。



出前授業の様子

⑪ J R 湖西線大津京駅構内文化財展示

大津京駅構内において、文化財の魅力をわかりやすく展示しています。



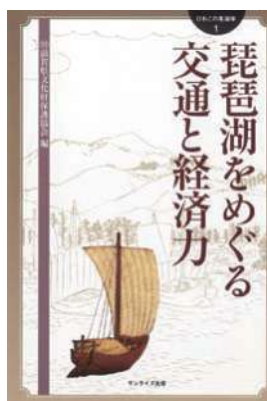
JR 大津京駅構内展示

⑫ ホームページ上での情報発信

文化財保護協会・埋蔵文化財センターでは、ホームページ上で、文化財に関する様々な情報を公開しています。発掘調査情報・現地説明会案内・現地説明会資料・出版物案内・整理調査速報などの情報をご覧いただけます。

5. 文化財関係印刷物の編集・刊行

滋賀県文化財保護協会では、埋蔵文化財発掘調査報告書を始め、県下に文化財を紹介する様々な印刷物を提供しています。



びわこの考古学 1
『琵琶湖をめぐる交通と経済力』
¥1,680



『びわこ 水中考古学の世界』
¥1,890



『近世の城と城下町』
¥1,680



『紀要』
第23号
¥1,000

★文化財活用事業に関するお問い合わせ・書籍のお申し込みは

財団法人滋賀県文化財保護協会

〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732-2

Tel:077-548-9780

<http://www.shiga-bunkazai.jp/>

滋賀県埋蔵文化財センター

Tel:077-548-9681

<http://www3.ocn.ne.jp/~shiga-mc>

財団法人滋賀県文化財保護協会 平成 21 年度事業実施概要

(1) 協会運営

◎役員会議等の開催

- 決算監査 平成 21 年 5 月 21 日(木)・25 日(月)
- 理事会・評議員会 年 3 回開催

◎管理事務

滋賀県埋蔵文化財センター・滋賀県立琵琶湖文化館

◎指定管理

滋賀県立安土城考古博物館
(指定管理期間 平成 18 年～22 年、5 年間)

(2) 埋蔵文化財の調査・研究・保護に関する事業

◎埋蔵文化財調査などの受託

(3) 文化財保護のための普及啓発事業

①文化財展の開催

- ◎「レトロ・レトロの展覧会 2009」
—平成 20 年度発掘調査出土品展—
期間 平成 21 年 7 月 18 日(土)～8 月 31 日(月)
入館者数 5,215 人
- ◎第 25 回成果展(安土城考古博物館と共同開催)
「水中考古学の世界—琵琶湖湖底の遺跡を探る—」
期間 平成 21 年 7 月 18 日(土)～9 月 6 日(日)
入館者数 8,300 人
- ◎J R 湖西線大津京駅構内文化財展示
年間を通して、1 回のテーマ展示と 2 回のポスター展示を実施
- ◎特別展示(イオンモール草津で実施)
特別展「縄文のアート」
期間 平成 22 年 3 月 20 日(土)～3 月 22 日(月)
入場者数 3,360 人

②刊行物の編集・刊行

- ◎「おうみ文化財通信」vol. 1～3
- ◎「紀要」第 23 号
- ◎「びわこ水中考古学の世界」
- ◎「琵琶湖をめぐる交通と経済力」

③発掘調査現地説明会などの開催

全 10 回開催 参加者延べ 1,386 人

④発掘調査報告会(地元教育委員会と共催)

全 2 回開催 参加者延べ 646 人

⑤整理調査報告会「あの遺跡は今!!」

全 2 回開催 参加者延べ 749 人

⑥連続講座の開催

「モノ知り学—遺跡調査員が語る近江の歴史—」
全 11 回開催
参加者延べ 280 人(うち公開講座 83 人)

⑦情報の発信

協会ホームページによる発掘調査情報、現地説明会案内、出版案内情報発信
平成 21 年度アクセス総数—
97,515 件(月平均 8,216 件)

⑧その他

- ◎職場体験等 29 校 参加者 115 人
- ◎講座、見学会、研修会講師等 93 回
参加者延べ 5,976 人
- ◎体験イベント 1 回(イオンモール草津)
参加者 96 人

(4) 文化財施設の管理運営事業

①滋賀県立安土城考古博物館(年間総入館者数 61,142 人)

◎特別展

○春季特別展 「大型建物から見えてくるもの—弥生時代のまつりと社会—」

期間 平成 21 年 4 月 25 日(土)～6 月 14 日(日)

○秋季特別展 「戦国の城—安土城への道—」

期間 平成 21 年 9 月 19 日(土)～11 月 8 日(日)

◎企画展

○第 38 回企画展・滋賀県文化財保護協会調査成果展
「水中考古学の世界—琵琶湖湖底の遺跡を探る—」

期間 平成 21 年 7 月 18 日(土)～9 月 6 日(日)

◎特別陳列

「よみがえった文化財—琵琶湖文化館の収蔵品と修復の世界—」
期間 平成 21 年 11 月 21 日(土)
～22 年 1 月 17 日(日)

○第 39 回企画展 「湖西の風土と遺宝

—高島郡を中心に—」

期間 平成 22 年 1 月 30 日(土)～4 月 4 日(日)

◎博物館講座 全 10 回開催 参加者延べ 679 人

◎学校関係体験学習事業

延べ 58 校 参加者 3,549 人(引率者を含む)

②滋賀県立琵琶湖文化館

◎展覧会(滋賀県立安土城考古博物館にて開催)

◎講座 全 7 回 参加者数 305 人

◎情報発信(ホームページアクセス数) 21,000 件

◎文化財修理等の技術指導、火災・盗難等の緊急受入
9 社寺

③滋賀県埋蔵文化財センター(年間入館者数 8,780 人)

◎常設展示

「琵琶湖と水の暮らし」展・「リサイクルの考古学」

◎刊行物

- ・「滋賀埋文ニュース」(第 343 号～第 348 号)
- ・「埋もれた文化財の話 30」
- ・「近江水の宝紹介リーフレットの作成」(7 種類)

◎出土遺物・写真・図書等のうけ入れ、利用状況

・「埋蔵大喜笑!!」貸出 12 件 利用者数 1,490 人

◎体験学習の実施

全 6 種のメニューで実施 参加者数 118 人

◎発掘調査成果の紹介

・第 94 回滋賀県埋蔵文化財研究会

「平成 21 年度滋賀県発掘調査成果報告会

土の中から歴史が見える 09

～最近の発掘調査成果から～」

平成 22 年 3 月 21 日(日)(ピアザ淡海で開催)

参加者数 150 人

(5) 文化財活用資金の貸付状況

◎貸付実績 6 件 37,500,000 円

発掘調査成果展「レトロ・レトロの展覧会 2010」

平成 22 年(2010) 7 月

編集・発行/財団法人滋賀県文化財保護協会

大津市瀬田南大萱町 1732-2

電話:077-548-9780

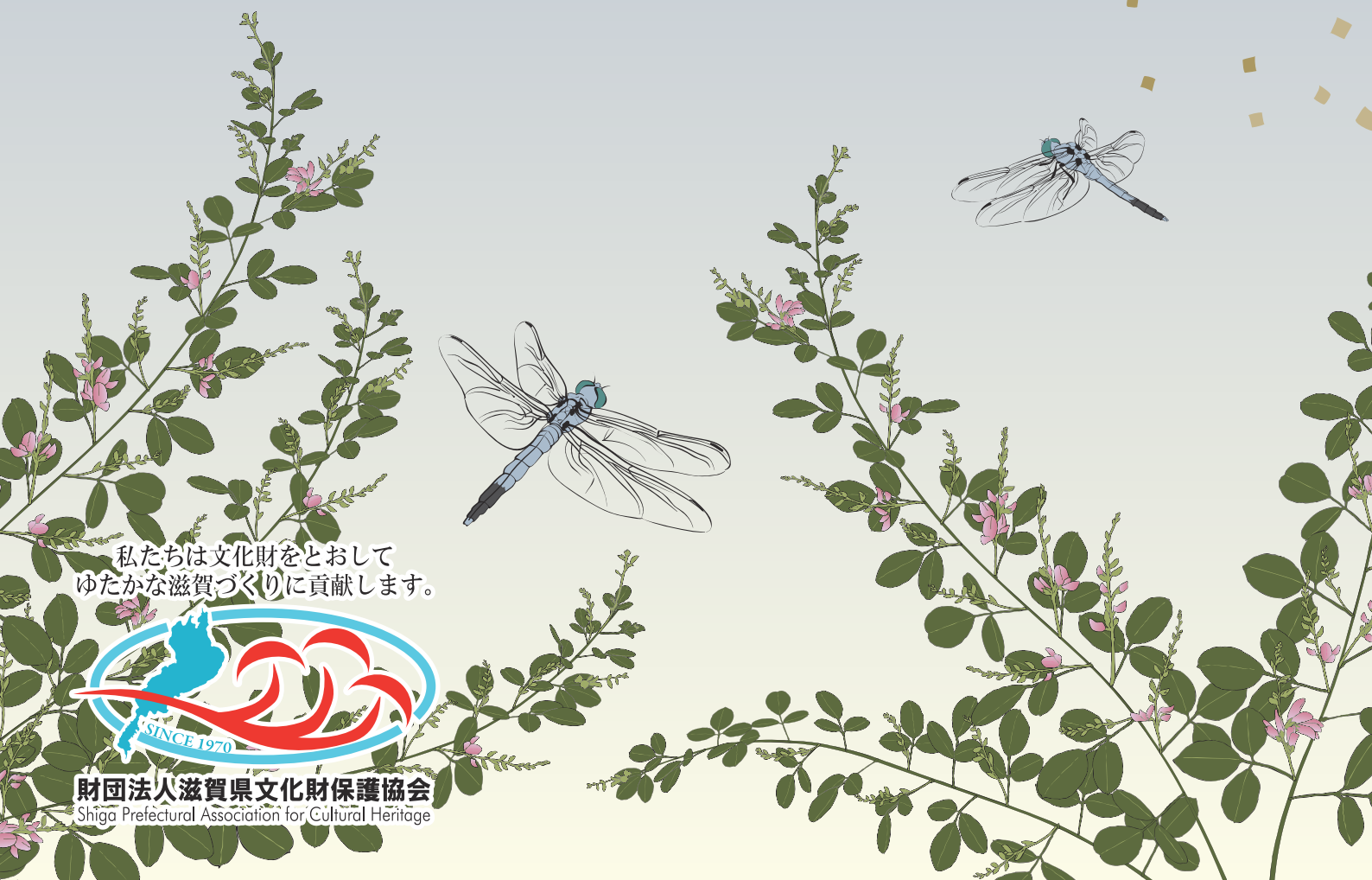
FAX:077-543-1525

共催/滋賀県教育委員会

印刷・製本/株式会社スマイ印刷

2010.7.17 ~ 8.31

<http://www.shiga-bunkazai.jp/>



私たちは文化財をととして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritage